

平成 19 年度モザイカルチャー「カモの飛行」展示について

磯部実・川口博康

平成 19 年度は植栽植物を変更して展示したので概要を記録する。

展示準備スケジュール

平成 18 年 7 月に展示・植栽植物の選定や作業スケジュール、作業方法などの検討を開始し、平成 19 年 1 月から前年度植栽植物の撤去を始め、2 月になって植物の植え付けを開始した（表 1）。

展示期間及び展示内容

展示期間は平成 19 年 4 月下旬～12 月下旬。

モザイカルチャー「カモの飛行」本体 5 体の配置や、群れで水上を飛び立つ状況は前年と同様にした（写真 1 参照）。カモの植栽デザインはマガモの雄の羽色を基本とし、6 色（7 品種の植物）とした（写真 2、3）。カモの下地面は、前年と同様、白玉石を敷き、美観を整えた（写真 1、3）。

展示植物の種類・数量及び期間中の生育状況

植栽植物の選定にあたっては、寒さや暑さに強く、草姿が低く、刈り込みに耐えることを条件とし、カモ本体に植えたプラグ苗植物は 5 品目 7 品種計 15,000 株（植え替え・補植分を含む）（表 2 参照）を準備した。頭部、尻部のセンペルビウム 2 品種は状態が良かったので、前年度株を残し、生育の悪いところや、枯れた部分は補植した。プラグ苗は前年度の植え穴を元に、4～8cm 間隔で植えた（写真 4、5 参照）。シロタエギクやモクビャッコウは苗が大きかったので広い間隔で植えた。その後の展示植物の生育状況は表 2 に記した。

周辺花壇の草花

周辺の花壇には、前年と同様水面をイメージさせるために春はパンジー青色品種を、夏～秋はブルーサルビア青色品種を植栽した（表 2、写真 1～3 参照）。また、花壇周縁の法面には土壌流失防止用に、タイム及びモモイロヒルザキツキシソウを植栽した。植栽や維持管理方法などについては、これまでの子ども花壇の記録に準じた。

モザイカルチャー「カモの飛行」作成に要した人役及び作業ボランティア

作業は職員とシルバー人材センター会員及びボランティアで行った（写真 4、5）。ボランティアは「植物公園植物友の会管理ボランティア」及び「広島県ハンギングバスケットマスターの会」の協力をいただいた。

メンバーはほとんどが前年の経験者で、天候にも恵まれ、作業は計画通り進めることができた（表 1）。

作業労力の算定は従事した職員やボランティアの出入りが頻繁で、必ずしも正確なものではないが、およそ前年の半分の 50 人役程度であった。

公開後の維持管理の主な作業

植え替えと補植：公開前後の春は、天候が良く、比較的暖かかったので、苗の活着や生育は良かった。ただし、夏は 9 月中旬頃まで猛暑が続き、植物の種類によっては水不足や病害虫のために枯れたり、生育の悪いものがあつたので、適宜植え替えや地肌が目立つ部分に補植を随時行った。

灌水：原則的に植え込み用土が乾いてからハス口による手灌水で行った。春から夏の晴天時はほぼ毎日、秋は数日～1 週間に 1 回程度の間隔であった。特に植え込み用土の少ない羽先部分がよく乾いたので、夏は朝夕 2 回行った。羽下や腹下の灌水は、羽上や背中にやるとき羽下や腹下に浸み出るくらい十分にやれば、下側から行う必要はほとんどなかった。

施肥（液肥）：およそ 2～4 週間に 1 回、昨年も使用したエーワン液肥 1 号（N:P:K=10:4:5）を水やりの代わりに施用した。特に植物剪定後は生長を促すために回数を増やした。

展示植物の剪定・刈り込み：センペルビウムを除くどの種類の植物も生長が早く、放置すると徒長枝が目立ち、カモの形状が悪くなったので、成長期の夏～初秋はおよそ 2 週間に 1 回刈り込みを行い、形状を整えた（写真 6）。

除草その他：プラグ苗に付着したカタバミなどの雑草やゼニゴケが生長してきたが、刈り込み時に取り除く程度で問題にはならなかった。春にパンジー及び夏からブルーサルビアを植えた花壇は、雑草がよく生えたので、花壇管理業務委託で 5、6、8 月に各 1 回ずつ除草したが、これ以外に雑草が目立つ所は友の会管理ボランティアを中心に適宜除草した。

病害虫の防除：8 月中旬にロニセラやシロタエギクにヨトウムシやダニが発生したので、薬剤散布（ア

ドマイヤーフロアブル、ローディー水和剤、トップジンM水和剤)を行い、発生を抑えることができた。9月下旬ブルーサルビアにコナジラミやコナガ、うどんこ病が多発したので、薬剤散布(ディプテレックス乳剤とダコニール1000)を行った。

夜間開園時のライトアップその他周辺整備

9月と12月の夜間開園時には、投光器(25～45ワットの蛍光灯ホワイトライト)をカモ1体につき左右2器設置し、ライトアップした。

西広場に設置している休憩用のテーブルセットの上にパーゴラを設置し、夏～秋にヨシズで日除けを行った。

うらら池そばのヘメロカリス花壇の前面花壇(15

m)に、春はパンジーやチューリップ、夏～秋はブルーサルビア、ヒマワリ、ペチュニアを植栽した。

周辺の広場や通路面には園内製造の間伐材チップを敷いた。

まとめ・課題と今後の取り組み

春先は比較的暖かく、植栽した植物も低温に強い植物を選んだので、活着やその後の生育は前年の植物より格段に良く、地肌が直接見えることは少なかった。ただしロニセラ黄色種は低温のために色彩がやや褐色がかった色になった。モクジャッコウは、プラグ苗の発根が悪く植えつけ時に根鉢が崩れたので植え付けに苦労した。夏から秋は順調に生育し、カモ全体の色彩も美しくなり特に胸部の赤色のアキ



写真 1. カモ全体風景 (2007 年 9 月 2 日)



写真 2. カモ横風景 (2007 年 9 月 2 日)



写真 3. カモ前風景 (2007 年 9 月 2 日)



写真 4. 植え付け作業 2 (2007 年 3 月 27 日)



写真 5. 植え付け作業 (2007 年 4 月 12 日)



写真 6. 剪定作業 (2007 年 9 月 11 日)

ランサスや羽下のシロタエギク、モクビャッコウは白の発色が良く、引き立った。シロタエギクとモクビャッコウは、深く切り込むと新芽が伸びるまでやや見苦しかった。頭部と尻部のセンペルビウム2品種は、前年の株を残したが株の老化や繁茂による大きな枯死はなく、補植も2割程度で済んだ。

今回の植物の選択は淡い色彩と、色彩の季節的变化があり、デザイン的にも概ね成功したと思う。また、アキランサスを除き、耐寒性、耐暑性、耐病害虫性に大きな問題はなかった。アキランサスに代わる赤色がデザインできる耐寒性のある植物の選択が必要であり、全ての植栽植物が耐寒性があり強健であれば、一部の補植や剪定等の日常管理だけで2～3年は継続して展示できると思われる。

花壇は、春のパンジーの生育・開花は概ね良好であった。夏から秋のブルーサルビアの植栽は、前

年はブルーサルビアが背が高くなり、秋に倒伏して見苦しくなったので、本年は夏の夜間開園の終了した9月中旬に草丈の半分から切り戻したが、部分的に枯れた株があり見苦しくなり、また、新芽が伸びて花が満開に咲くのが行楽シーズンの終盤の11月中旬頃になったのは残念であった。植え替えなどの手間がかかるが、秋からはソバやわい性のコスモスなど短期間で開花しする花壇植物に切り替えて展示することが必要であろう。

謝辞

忙しい中、大量のプラグ苗の植え付け及び除草などの維持管理作業に協力していただいた植物友の会管理ボランティア及び広島県ハンギングバスケットマスターの会会員に感謝します。

表 1. モザイカルチャー「カモの飛行」作成及び展示作業スケジュール

年	月	旬	内 容
18	7		カモのデザイン及び展示植栽植物の検討、決定
	9		苗生産委託農家の選定、見積
	10		植栽植物プラグ苗生産委託契約
	11		植物公園植物友の会と広島県ハンギングバスケットマスターの会へ作業ボランティアの依頼、打ち合わせ
19	1	下旬	前年花壇植栽のブルーサルビアの抜き取り撤去
	2	上旬	花壇元肥施用・耕耘・整地・畝作り、白玉石洗浄
		下旬	花壇パンジー開花苗植え付け
	3	中旬	カモ本体へ植物（センペルビウム）植え付け（補植）
		下旬	カモ本体へ植物（ロニセラ）植え付け
	4	上旬	カモ本体へ植物（アキランサス）植え付け
		中旬	カモ本体へ植物（シロタエギク、モクビャッコウ）植え付け
		下旬	カモ下白玉石利敷設、展示開始
	6	上旬	花壇パンジー抜き取り撤去、花壇元肥施用・耕耘・整地・畝作り
		中旬	花壇ブルーサルビア開花苗植え付け
	8～9	下旬～上旬	夜間開園ライトアップ
	9	下旬	ブルーサルビア剪定
	12	上旬	夜間開園ライトアップ
	〃	〃	降霜のためアキランサス変色。周辺花壇のブルーサルビアも開花終了

その他日常的な作業

- ・灌水は用土の乾き具合や植物のしおれ具合を見て、原則春から夏は毎日、秋は数日に一回
- ・生育不良苗の植え替えは適宜
- ・2週に1回液肥散布
- ・生育期は2週に1回カモ展示植栽植物刈り込み、剪定
- ・花壇の除草や花がらとりは随時

表 2. モザイカルチャー「カモの飛行」展示植物の生育状況

種類と色	規 格	数 量*	生育状況
シロタエギクまたはモクビャッコウ 白色	セル苗	4,000	低温には強く、生長も早い。剪定後に茎が目立ち萌芽がやや悪い。特に夏から秋に色彩良好
ロニセラ 黄色	セル苗	6,000	低温で褐色になる。分枝性良く、刈り込み後の萌芽が良い。秋に黄色の色彩良好
ロニセラ 白色（斑入り）	セル苗	2,000	刈り込み後の萌芽がやや悪い。春から秋は緑白色になるが秋に色彩良好
アルテルナンテラ（アキランサス） 赤色	セル苗	2,000	分枝良く、刈り込み後の萌芽が良い。年間通して色彩良好
センペルビウム 赤色	セル苗	2,000 (ほとんど前年株)	昨年に比べて抽台開花するものがあり、欠株したので補植した。夏は緑色だが、秋に色彩が良好
センペルビウム 白色	セル苗	2,000 (ほとんど前年株)	繁茂して良好な状態。分枝した子株が垂れ下がるものがあるので、剪定必要。春はやや緑褐色だが秋に色彩が良好
パンジー 中輪 青色	3号ポット苗	6,000	3～5月植栽展示。生育・花上がり良好
ブルーサルビア 青色	3号ポット苗	5,000	6～11月植栽展示。秋に倒伏したので剪定したが一部枯死し、秋の開花遅れる

*植替え、補植分を含む